

いしかわ農村ボランティアで職員が遊歩道づくり



コープいしかわでは、役職員が年に1回、地域のためのボランティア活動に従事することをすすめる「ワンディボランティア」を実施しています。10月14日(日)、石川県が呼び掛けるいしかわ農村ボランティアに職員9名が参加し、金沢市平町で活動しました。当日は「平町の活性化を考える会」のみなさんと一緒に、丸太を大きな槌で打ち付け階段をつくり、千本桜の林の中を通る遊歩道作りを行いました。終了後には集落の方から温かいめった汁をいただき、「桜の季節にまた来たいです」と交流を深めていました。



食の安全・安心コラム シリーズ アレルギー物質②

表示と管理についておしらせします

コープ商品とアレルギー物質のおはなし

前回はアレルギー物質表示の対象とする種類とアレルギー表示をするための確認のポイントについてお伝えしました。今回はアレルギー物質検査についてお知らせします。

食物アレルギーとは、身体が食品に含まれるタンパク質に過敏な反応を起こすことです。アレルギー物質が体内で異物とみなされると免疫反応が起こり、時には重篤な症状を引き起こします。ほかの人にとっては問題のない食べ物が、ある人にとっては食物アレルギーの原因となるため、商品のアレルギー物質表示は安全に直結するとても重要な情報です。

アレルギー物質検査とは：

検体(検査する商品)の中にアレルギー物質が存在するかどうか、濃度はどのくらいかを測定すること。

1 検査する商品に薬液を混ぜ、抽出します。



均一にした商品(時にはスムージー状)

毎日多くの検査用商品が到着します。まずは商品をミキサーにかけて均一にし、アレルギー物質検査用の薬液を混ぜて一晩おきます。



薬液を入れて20倍にします

2 上澄み液を取り出します。



緊張します

翌日、それぞれの上澄み液を検査用にとりわけます。

検査の流れ

3 検査キットに注入します。



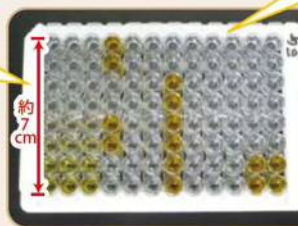
小麦用
乳用
卵用

穴ひとつひとつにアレルギー物質に反応する試薬が入っています。

一度に8商品分の上澄み液をキットに注入します。

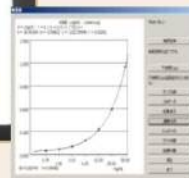
検査するアレルギー物質ごとにキットがあり、それぞれに②でとった上澄み液を加えます。ミスがあると、貴重なキットを無駄になってしまうため、慎重に作業します。

4 反応を測定します。



約7cm

黄色は検出(アレルギー物質がある状態)。色の濃さを機械で測定し、濃度を計算します。



検査開始から約20時間後、ようやく結果が判明します。結果と表示が合致しているか、点検します。